

## ウガンダにおける在来知と外来知の受容



経済学部 1 年  
児玉 航  
ウガンダ

2016 年 8 月 22 日～  
2016 年 9 月 28 日

### 渡航概要と内容

#### <概要>

夏季休業中にウガンダの首都カンパラにある、MYDEL という NGO 団体でボランティアを行った。

各国からのボランティアと生活をともにするゲストハウスに滞在した。

#### <内容>

午前中はスラム街の補修クラス、午後は職業訓練センターのコンピュータークラスで活動した。

活動を通して、ウガンダのおかれている状況や直面している課題を見つけることができた。

コンピュータークラスの中で起業を志す生徒たちと計画を立て、帰国後にクラウドファンディングで起業のための資金集めを行った（12月に成立した、1月中にビジネスが始まる予定）。

### 渡航を通じて感じたこと

#### ①アフリカ、特にウガンダに対する認識の変化

東南アジアに住んでいたことから、ウガンダもその延長線上にあるのではないかと想像していた。しかし実際には、これまで経験したことがないような独特な文化、雰囲気、人の物に対する考え方等に出会った。

## ②様々な背景を持つ人たちと交流することの重要性

ゲストハウスでの各国から来たボランティアや現地のウガンダ人たちとの交流の中で、彼らの考え方やものの見方の違いを改めて感じる事ができ、それと同時に自分の視野が広がったように感じられた。

## ③食べられることの重要性

ケニアのナイロビに行く機会があったが、ウガンダと比べて食へのアクセスが厳しいナイロビでは経済的に発展しているにも関わらず、ウガンダのカンパラよりも人々の表情が全体的に陰しい印象を受けた。民族性の問題もあるのだろうが、失業率が非常に高いウガンダであれほど治安が良好なのは安く食が手に入るからではないかと思った。

## ④将来への意識

もともと国際協力に興味を持っており特にアフリカに関心があった。実際に初めてアフリカへ行き、(ウガンダとケニアの印象だけだが)非常に面白く、居心地のよい土地だと感じた。将来、ここの人たちと関わっていきたく強く思った。特にクラウドファンディングを通して、現地の人たちと協力して、現地の問題を解決しようとしていくことのやりがいを感じる事ができた。



コンピュータークラスの様子



コンピュータークラスの先生と

## 今回の経験をどのように今後生かしていくか

### ①春休みについて

春休みはパラグアイでの JICA インターンに参加する。おおまかな内容は農村における技術支援である。このインターンを志望したのは、ウガンダでの経験から食の重要性を実感し、食料生産の問題に興味を持ったからである。

### ②留学について

来年から交換留学でイギリスのサセックス大学に1年間留学する。サセックス大学は世界的な開発学の権威である、IDS が拠点を置く大学で、開発経済学についてじっくりと学びたいと思っている。

### ③将来について

今回の経験を通じて、特にアフリカにおいて国際貢献関連の分野に関わっていきたいと強く感じた。将来どのようなことを具体的にしたいかということと、そのために必要な勉強は何のかを考えていきたい。

## 主な奨学金の使途

- \*渡航費
- \*海外旅行保険・予防接種
- \*ボランティア諸経費
- \*滞在費 など

